

# 清流

題字：芳野 充

令和3年2月28日

第50号

発行所 加来不動産(株)

発行者 加来 寛

北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに  
静かに  
清流のように

身も心も清々しく生きる

今月ご紹介させていただき、品性を豊かにするための「二十の徳目」は、「清潔」です。「清潔」とは、身も心も清々しく、汚れていないさまを言います。「身も心も清々しく」というキーワードを聞くと、ある話を思い出します。

2016年夏。一枚の写真が、フェイスブックやツイッターなどをうじて世界中でおおきな反響をよびました。それは、サウジアラビアの副皇太子が来日した際、皇居・御所の一室でおこなわれた会見の様をうつしたものでした。何の飾り気もない部屋にテーブルがあり、そのうえに花を活けた花瓶が一つあるだけ。障子からやわらかな明かりがさしこみ、その凛とした気品あふれる空間のなか、天皇陛下と副皇太子が向かいあい言葉をかわしています。

このたった一枚の写真に世界からおおくの賛辞がよせられました。「本当に素晴らしい場所だ。うるさくなくシンプルな作りで、大事な部分の一点にまとめられている。日本らしい！（サウジアラビア）」「金も装飾もなく、衝撃的な一枚だ。この謙虚さが美しいのだろう（米国）」「写っているものは最低限のものしか置かれていないにもかかわらず、部屋から美しさや気品があふれている（モロッコ）」。「引き算の美」に日本の精神性をみる賓客はおおいと聞きます。このように清潔のいきつく先には、見た人の身も心も清々しくさせるといふ本質があるのだと思います。

また、仏教用語に「唯心所現」という言葉があります。「心の状態は、その人の身のまわりにあらわれる」ということです。いつも気持ちい不安定だった当時のわたしの身のまわりは、たしかにモノであふれ雑然としておりました。しかし、以前に比べるとモノであふれ返ることとはなくなりました。

わたしたちの心は、本来うつくしいものを求める本質があると思います。しかしそれが、心のクセでおおわれてくると、自分のモノは自分のモノだから雑然とおいて見苦しくても関係ない。あるいは、わたしは忙しいからしょうがない、と自分本位の考え方がつよくなり、まわりを気にせず「清潔」にうとくなくなってしまいうような気がします。身も心も清々しくするためには、ふだんから身だしなみを整え、部屋や周辺の整理整頓を意識することが大切だと感じます。えらそうなことを言える立場ではありませんが、できることから少しずつ継続していきたいと思います。

加来 寛

